

TRADOS の問題点

Commented by SKami

弊社翻訳スタッフの Shino が「訳者の独り言 01」で TRADOS について触れましたので、それに少し付け加えたいと思います。

Shino は、事例として「XX パラメータを設定する」の訳文として「Set the XX parameter.」以外にも、その状況に応じて、より適切な訳文を考える必要がある旨を説明しました。

TRADOS に限りませんが、こういった翻訳支援ツールを登場により、最近クライアント様が、これらのツールを使ってご依頼をされることが多くなってきました。この翻訳ツールを使った場合の問題点は、Shino が「訳者の独り言 01」で述べたとおりですが、メモリの使用の問題点について追加的に言及したいと思います。

取扱説明書や各種マニュアルの部類であれば、同じ表現であれば流用できて、そういった部分は翻訳依頼から外して、新規の箇所や、部分的に改訂すればよいという理由から、非常に有効だと判断されているクライアント様が多いのですが、その際、同一表現やフレーズに、翻訳不要ということでロックをかけられることに大きな問題があります。

「訳者の独り言 01」での指摘のように、翻訳者はその文脈に沿うように訳文を考えるわけですが、翻訳不要とされロックをかけられた部分にも、状況に応じて変更したい箇所があったとしても勝手に変更できないというもどかしさに遭遇します。内容的には、操作を含めた説明記述もありますが、特に悩ましいのはユーザーインターフェース (UI)などで、英文を変更したい部分があっても、現状のプログラムのメニュー表示やプロンプトを変更することはできないという点においてはなおさらです。

上級レベルの翻訳者であれば、決して見逃せない部分だとしても、このロックには手も足も出ないわけです。気になるころがあれば、コメントするときもありますが、たまに改訂に応じて頂くこともあります。そのままにしなければならぬということで、こちらの変更提案を却下されることが多いと言えます。

このような作業経過の中で蓄積されたいくメモリ (TM) が、その都度ベースとなり、それ以降の作業に流用されていくと、どうなるかということは容易に推測できます。表現的なものだけでなく、特定用語についても不統一なものも発生してきます。あるマニュアルでは、1つの装置や処理について A という英訳語があり、全体的にその英訳語に統一するように指示を受けても、別のマニュアルでは B という英訳語が使用されており、その両方がメモリに混在することになると、はたしてどちらに合わせるべきかで、大きな悩みとなります。結果的に、完成度の高い文書とは言えないものとなってしまいます。

品質にこだわる翻訳者であれば、クライアント様に対して、そういった問題点に関するコーディネートも業務の一環としなければならないと思っています。